

# with Dignity

金城学院の明日を見つめる [ウィズ・ディグニティ]

金城学院報

2024.  
07  
vol. 43

金城学院大学らしい地域連携をめざして。  
本学と岐阜県富加町が  
包括的連携協定を締結。

金城学院大学らしい地域連携をめざして

# 本学と岐阜県富加町が 包括的連携協定を締結



「ちょうどいいまち」をキャッチフレーズに、次世代に向けたまちづくりを進める岐阜県富加町と、教育・研究を通して若者や女性の活躍を支援する本学が、2023年7月、包括的連携協定を締結しました。

本学が自治体と包括協定を結ぶのは、守山区、尾張旭市に次いで3例目。本学の長谷川直樹教授（生活環境学部）が富加町の総合計画や総合戦略のアドバイザーを務める縁で実現したもので、「まちづくり」「子育て支援・地域福祉」「産業・観光の振興とPR」「教育・文化・スポーツの振興教育」「人材育成」の5点を柱に、多様な分野で、継続的な連携を推進していきます。



町役場の人々と意見交換する学生たち

## 本学の知的資源や人材を 次世代に向けたまちづくりに。

2023年7月3日、本学生活環境学部長谷川直樹教授の研究とプロジェクトの成果として、岐阜県富加町と本学の包括的連携協力に関する協定を締結させていただきました。長谷川教授の指導のもと、富加町の次世代に向けたまちづくりに本学学生たちの協力を期待していただけることは嬉しい限りです。

本学は、学院として135年の歴史と、女子総合大学として75年の歴史を刻んでまいりました。その教育の理念は、「キリスト教の精神に基づく女性への全人教育」です。強さと優しさをもって隣人のために働く女性を育成しております。その教育の経験と取り組みを期待していただき、魅力ある未来の社会づくりに本学を役立てていただけたらと願います。

めまぐるしく変化する社会のなかで、若者の視点やアイデアには、日々驚かされることばかりです。長谷川教授と学生たちの持てる力と魅力が存分に用いられますよう、そして活力あるまちづくりがより一層深められますよう願ってやみません。

金城学院大学学長 小室尚子



## 若者や女性の視点を活かした 魅力あるまちづくりに大いに期待。

富加町は、岐阜県の中南部にある人口約5,800人の小さな町。金城学院大学のある名古屋市守山区から北へ約40km、車で1時間程の位置にあります。2015年から貴校の長谷川直樹教授（当時は名城大学大学院兼任講師）に地方創生アドバイザーとしてご指導いただいたご縁で、人口増加対策で次世代に向けたまちづくりをめざす本町と、女子総合大学として若者や女性活躍を支援する貴校が連携し、まちづくりを推進してはとのありがたいご提案をいただき、包括連携協定を締結しました。

その後、学生による町内各所の訪問や貴校学生へのアンケート調査を実施し、『総合計画の分析提案』や『若者にとっての魅力ある富加づくり提案』をまとめ、町職員への発表と意見交換等を実施していただき、大変実りあるものとなりました。現在も、町の魅力発見ツアー、町特産品開発への協力など、若者の視点を活かした様々な取り組みを展開。今後も、次期町総合計画の策定、貴校の強みである英語教育等での連携も計画しており、大きな期待をしているところです。この小さな田舎のまちが貴校学生の学びの場となり、それが当町のまちづくりに繋がるよい関係のもとで、協力連携をより深めていきたいと考えています。

岐阜県富加町町長 板津徳次  
(2024年5月時点)



## 富加町プロジェクトの | 活 | 動 | 報 | 告 |

### 富加町の 若者定住促進案を 卒業研究で提案

協定締結後の第1弾として、長谷川ゼミの学生2人（2023年度卒業）が定住

政策を卒業研究の題材にして、若者や女性の定住政策を提案。本年度の4年生2人がその政策を実現するための具体的な施策の検討・立案に取り組んでいます。

### 魅力発掘フィールドワーク

生活環境学部環境デザイン学科の2・3年生19名が富加町のフィールドワークを実施。町内では5班に分かれて道の駅や松井酒造場などを視察し、その後、若者



にとって魅力あるまちづくりについて、町役場の人々と意見交換を行いました。

### とみぱんTシャツ プロジェクト

環境デザイン学科アパレル・ファッションコース2年生の有志9名が、富加町の公式マスコットキャラクターとみぱんのTシャツとポロシャツのデザインに取り組みました。2024年夏の販売をめざして、現在試作を重ねています。



富加町マスコットキャラクター とみぱん



(写真左から) 石川瑞穂さん、長谷川直樹先生、磯山留愛さん

学生や町職員と手を携え  
多様な分野での連携・協力を進めたい。

生活環境学部環境デザイン学科教授 長谷川直樹

私が地方創生のアドバイザーを務めるようになった10年ほど前の富加町は、若者の流出や高齢化の進行など、日本が抱えている課題の縮図のような町で、2014年に日本創成会議が公表した「消滅可能性都市」に位置づけられていました。危機感を抱いた町は人口増加対策を推進する施策を様々に進め、その結果、近年では県内有数の人口増加率を達成。2024年4月、人口戦略会議より公表されたレポートでは、消滅可能性自治体からの脱却を果たしています。

次のステップとして、現在は増加した人口の維持・継続を図るとともに、若者や女性にとって魅力があるまちづくりを進め、次世代に向けた「住みたい・住み続けたいまち」をめざしています。本学と包括的地域連携を結んだのもその一環で、『互いの尊厳を認め、互いを生かしあえる愛に基づく社会をつくる。』を大学の存在意義と位置づけ、長年にわたって若者や女性の活躍を支援している本学が協力することで、解決できる地域課題はたくさんあると思っています。包括協定を結んで

まだ数ヶ月ですが、すでに複数のプロジェクトが並行して進められています。今年度も多くの学生が各プロジェクトに参加しています。学生たちが地域に出向き、地域の課題解決やまちづくりに継続的に取り組むことが、地域の人々がわが町の魅力を再発見し、よりよいまちづくりを進める原動力にもなっています。本学教職員の皆様のご協力により、今後も幅広い分野での連携・協力を推し進め、町の活性化、魅力づくりを全力でお手伝いしていきたいと思っています。



女子総合大学の  
役割を活かした  
地域連携で  
持続可能で活力ある  
まちづくりを  
実現したい。



先輩の卒業研究を引き継ぎ、  
若者の定住を促進する具体的施策を  
提案したい。

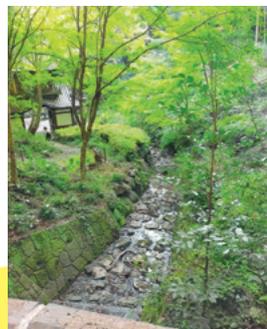
石川瑞穂さん (生活環境学部環境デザイン学科4年)

昨年の富加町の魅力発見ツアーに参加して、「いろんなまちがあって、いろんな暮らしがあるんだな」ということを実感し、まちづくりって面白いなと思ったのが「富加町プロジェクト」を卒業研究のテーマにしようと思ったきっかけです。先輩方の卒業研究を引き継ぎ、さらに発展させていくというのですが、先輩方が残した論文には学生100人に実施したアンケート結果があり、「田舎に住みたい」、「自然のあるところに住みたい」という回答が多数ありました。そこに着目して考えたのが景観条例の作成。町の魅力でもある富加町の自然を守るための施策を具体的に提案していきたいと思っています。

富加町プロジェクトで企画力・実践力を養い、  
将来はまちづくりに携わりたい。

磯山留愛さん (生活環境学部環境デザイン学科4年)

私には夢があります。それは卒業したら地元の公務員、あるいは地元企業に就職して、自分が生まれ育った地域(知多郡阿久比町)をもっと魅力的な町にする活動に取り組んでいきたいということ。「富加町プロジェクト」に参加したのも、地域のリアルな課題に取り組むことで、まちづくりの実践的なスキルが養えると思ったからです。阿久比町はすごく田舎なんですけど、良さもたくさんあるという点で、富加町に似ているなと感じています。現在取り組んでいる卒業研究でも、豊かな自然や山あいの風景など、今ある富加町の魅力を活かした施策を提案し、町の活性化につなげていきたいと考えています。



### 特産品開発事業 試食会に参加

本学食環境栄養学科3年生7名が、富加町の農産物であるイチゴ、黒米、かぼちゃを原材料にした特産品の試作品試食会に参加。学生は食のコンサルタント 山口香代子さんの考案したスイーツなど5品を試食し、若者・女性の視点から意見を交わしました。



### 食材を無駄なく使い切る 「エコレシピ」を考案

家庭から排出される生ごみの削減をめざし、本学食環境栄養学科の学生が食材を無駄なく使い切る「エコレシピ」を考案。第一弾として、「ブロッコリーの芯のきんぴら」を提案。今後も継続してエコレシピを提案していく予定です。



### 今後の 活動計画

- 1 富加町の魅力化に関する卒業論文の取組みの継続
- 2 「とみぱん」グッズの共同開発
- 3 食と健康に関する総合的支援
- 4 小学校の英語教育を支援





世界中の子どもが、安心して、自信を持って、自由に生きられるように。そんな願いをこめて、国連が「子どもの権利条約」を採択して今年で35年。しかし、依然として子どもの権利は十分に守られていないのが実情。とりわけ虐待を受けた子どもの権利擁護は喫緊の課題、と上村千尋先生。大事なことは、子どもの声を聴き、一緒に考え、支援につなげる。そのための仕組みづくりや人材育成も必要。その研究活動にゴールはありません。

## 世界のすべての子どもがもつ「子どもの権利」とは。

私の専門分野は子ども家庭福祉学です。とりわけ虐待を受けた子どもや非行少年など、施設で生活する子どもの権利擁護や自立支援のあり方について研究しています。子どもの権利への関心が強くなったきっかけは、2001年、横浜で開かれた「児童の商業的性的搾取に反対する世界会議」に国際協力NGOのファシリテーターとして参加したこと。各国から集まった子どもたちと一緒に「子どもの尊厳と幸福を確保する社会のあり方」を考え、それを詩や歌、踊りなどで表現する機会にふれ、当事者が発信するメッセージの力強さを実感。同時に、子どもが自分の思いを言語化し、一緒に声をあげていく仲間が存在や、それをサポートする大人の存在がいかに大切か、そして、その子どもたちの声を社会につないでいく仕組みづくりの重要性を痛感したことが、今の研究・活動につながっています。

ところで、皆さんは「子どもの権利条約」をご存知でしょうか。子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約で、1989年に国連で採択されました。日本は1994年に批准しています。この条約が画期的であったのは、子どもは「保護の対象」であると同時に、

尊厳あるひとりの「権利行使の主体」でもあることを明確に打ち出したこと。その最たるものが条約12条の「意見表明権」です。

## 子どもの声が聴かれ、その声が尊重されること。

意見表明権の中には、子どもたちの言葉にならない思いや助けを求める権利、加えて子どもが安心して自分の意見や思いを表明できる人間関係と居場所が保障される権利も含まれています。しかし残念なことに、私たちの社会では子どもをめぐる環境が悪化し、子どもの声や意見が十分に聴かれていない、声が奪われている、という現状があります。なかでも児童虐待は深刻な子どもの権利侵害。2022年度に全国の児童相談所に寄せられた相談件数は21万件を超え、増加の一途を辿っています。こうした現状を変えるべく、政府は2023年4月のこども家庭庁の発足にあわせ、子どもの権利条約の理念を盛り込んだ「こども基本法」を施行。さらに、改正児童福祉法において、子どもの声に耳を傾け、その声を必要な支援システムの中につないでいく「子どもアドボカシー（意見表明等支援事業）」も、2024年度から本格始動。子どもの声が聴かれ、権利を擁護していく仕組みがようやく整いました。

子どもが子どもらしく生きられる社会に。

子どもの声を聴き尊重する



## 上村 千尋 教授

KAMIMURA Chihiro

金城学院大学 人間科学部  
現代子ども教育学科

立命館大学大学院 社会学研究科博士課程前期  
課程修了。修士(社会学)

【専門分野】  
社会福祉学(子ども家庭福祉、司法福祉)、社会学

【研究課題】  
・子どもの意見表明を支援するアドボカシー  
センター創出のためのアクションリサーチ  
・児童自立支援施設における権利擁護  
・イギリスのケアラー支援における権利擁護

【主な社会的活動】  
・愛知県施設入所児童等意見表明推進事業  
外部スーパーバイザー  
・子どもアドボカシーセンターNAGOYA 理事  
・中国地区児童自立支援施設協議会・専門委員会  
スーパーバイザー  
・名古屋市子どもの社会参画の推進懇談会 委員

【主な所属学会】  
日本子ども虐待防止学会、日本司法福祉学会、  
日本社会福祉学会、子どもアドボカシー学会(理事)

### 現場での学びをよりよい授業、調査研究につなげる。

子どもの権利擁護やアドボカシー活動を広げていくために、私はいくつかの社会的活動に関わっています。一つは、スーパーバイザーという立場で児童自立支援施設を定期訪問し、虐待や貧困などを背景に抱える非行少年の権利擁護や自立支援のあり方を施設の人たちと協議しています。また、児童相談所の一時保護所における訪問アドボカシー活動では、意見表明権について子どもに説明したり、生活に関する子どもの意見や要望、不安な気持ちなどを児童相談所につないだりする役割をしています。こうした活動から得た学びを学生たちに伝え、子どもの権利や虐待防止についてともに考えていくことも、大学教員としての私の役割だと思っています。学生がめざしている保育者や教員は子どもにとって身近な存在。子どもたちの言葉にならないSOSをいち早くキャッチできる立場でもあることを理解し、支援につなげるために必要な法律や制度を学んで、現場で生かせる人になってほしいと願っています。その専門知識や技術、「子どもは尊厳を持ったひとりの人間である」という子ども観は、ひとりの女性として、市民としても生かすことができ、地域社会に貢献していく力となるでしょう。

教えて先生!

My Favorite



孤児の歴史を知ることができる博物館(ロンドン)



西穂高岳独標

自然が好きで、休日は家族と一緒に登山をしたり、森の中を散歩したり。季節の花やお気に入りの花を飾ることも好きです。仕事に疲れた時は、大きなカップに香りの良い紅茶をたっぷり注いでティーブレイク。一息ついたら、さあ、またひと頑張りしよう、という気持ちになります。美術館巡りや映画・舞台鑑賞も大好きです。

### 上村ゼミの活動アルバム



子ども家庭福祉学で扱うテーマは、子どもの貧困や虐待など、社会と密接につながっています。そのため上村ゼミでは、ユニセフハウス(東京)での研修、外国にルーツのある子どもを支援するNPO団体での学習支援ボランティア、地域の子ども食堂のボランティア、瀬戸少年院への参観など、フィールドワークを積極的に行い、学びをより深めています。

### Q. 上村千尋先生ってどんな人?

温かくて、優しく、  
いつもどこかで見守ってくれる。

私たちが不安を抱えたり、悩んだりしているときは、真剣に話を聴き、すべてを肯定的に受けとめた上で、適切なアドバイスをしてくれれます。その言葉一つひとつに愛がこもっていて、前を向く力になります。上村ゼミの魅力は、授業が熱くて楽しいことに加えて、フィールドワークでいろんな体験ができること!私たちは今、「食」を切り口に、外国にルーツのある子どもたちに向けた小冊子を作る計画をしています。それも、フィールドワークを数多くしてきたことで、「子どもたちを取り巻く課題」が見えてきたから。これからもせっせと現場に通い、情報収集をして、中身の濃い1冊を作りたいと思っています。



左から上村ゼミ(4年生)の  
浅野うららさん、井原千穂さん、阿部萌花さん、石原光梨さん



高校時代の担任から誘いを受けて母校の教員になった河口奈穂子先生。もともと教職という選択肢はなかったはずなのに、気がついたら39年。続けてこられた原動力は、生徒の成長をともに見守る同僚の存在。そして、つまずいたり、悩んだりしながらも、懸命に頑張る生徒の姿。人生のモットーは、「目立たないように、ひっそりと、平和に生きる」。生徒に伝えたら、どれも当てはまっていらない！と一蹴されたと言います。

### シェイクスピアの作品研究に没頭した学生時代。

私が金城学院中・高の教員になったのは、たまたま高校時代の英語教師で、担任でもあった恩師から非常勤講師にならないか、とのお誘いを受けたことがきっかけです。ちょうどその頃、私は体調をくずして卒業後についた仕事を辞めていたのですが、オファーをいただいたのでありがたくお引き受けしました。もちろん、私に教員という仕事が務まるのか不安でいっぱいでしたが、幸いにも金城学院は私の母校であったこと。指導を受けた先生もたくさん在籍されていて、新米の私をあたたく迎え、手厚いサポートもしていただきました。それから39年。職員室はいままも温かい雰囲気にも包まれて、どの先生も優しい。生徒たちも皆、他者への思いやりの心を持っています。それが金城学院の文化であり、良き伝統だと思います。

大学時代を振り返ると、ゼミではシェイクスピアの戯曲を専門に研究している先生のもとで、もっぱら彼の戯曲と向き合っていました。シェイクスピアの戯曲にはときおり解説が困難な箇所があり、それらが描かれた時代(16世紀末～17世紀初頭)の言語や時代背景、社会的背景を調べながら、一生懸命読み解いた記憶があります。シェ

イクスピアの作品が今も人々を魅了するのは、そこに人生の縮図を感じる。喜びや悲しみ、嫉妬や欲望などの感情がリアルに描かれているところがおもしろく、没後400年以上が経った今も人気を衰えない理由だと思います。

### 英語という「言葉」の勉強を通して、 自分の視野、世界を広げてほしい。

英語指導では、ネイティブ教員とも連携しながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能をバランスよく習得させることを目標に授業を進めています。本校では開学当初から英語教育に力を入れており、私の中学時代にも、当時では珍しいアメリカ人講師がいて、ネイティブの英語を直接学ぶことができました。ただ、いくら環境が整っていても、英語が苦手という生徒は必ずいます。そういう生徒たちにもできるだけ楽しく授業に参加してもらえよう、リズムの良い授業、メリハリのある授業を心がけています。たとえば、授業が単調になりそうだったら、テキストから少し離れてみる。あるいは観点を変えて考えさせてみる。教科書に書いてあるトピックは、その作者の観点で書か



他者を理解し、受け入れる。

それが金城の文化であり魅力である。



## 河口 奈穂子 教諭

KAWAGUCHI Naoko

金城学院高等学校  
担当教科 英語

- 1984年3月 金城学院大学文学部  
英文学科卒業
- 1985年10月～ 金城学院中学校・高等学校  
非常勤講師
- 1995年4月～ 金城学院高等学校  
専任教諭
- 2000年4月～ 金城学院中学校  
茶道部顧問
- 2008年4月～ 金城学院高等学校  
華道部顧問

れているので、あなたならどう考える?と自問させる。そのあとのディスカッションでいろんな生徒の意見を聞くことで、多様なものの見方・考え方があることを知る。iPadを活用して、テーマに沿ったことを調べさせたり、意見をまとめさせたりもします。近年は英語の教科書にも環境問題やSDGsが扱われるようになり、単に英語のスキル向上だけでなく、英語教育を通して、生徒が持続可能な未来に向けて考える力を養っています。

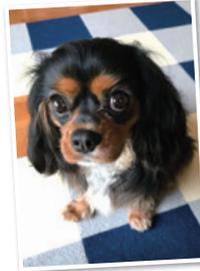
### 高校生として今すべきことを、 できる範囲で一生懸命やろう。

教師という仕事の魅力は、生徒たちの成長を間近で見られること。とりわけ高校の3年間は身体的、精神的に大きく変化し、成長する時期。そんな時期を共に過ごし、悩んだり葛藤したりしながらも成長していく姿を見ることが、教師を続ける原動力になっているのかもしれませんが。そんな生徒たちに、いま一番伝えたいことは、「したいことよりも、すべきこと」を考えることができる人になってほしいということ。したいことはいつでもできるので、高校生である自分が今すべきことは何かを自分で考え、それを実行する。それが、社会に出た時に役に立つ力、困難を乗り越えていける力になると思います。



世界三大テノールのひとり、ホセ・カレーラス

趣味は音楽鑑賞と美術鑑賞。特に音楽はオペラ歌手のホセ・カレーラスのファンで、ファンクラブにも所属。以前は長期の休みが取れるとヨーロッパまで出かけて彼のオペラやリサイタルを鑑賞。彼が来日すると、北は北海道から南は九州まで追っかけて入り待ち、出待ちをしていた時も。しかし今はエネルギー切れで、ひたすら引きこもりの日々。その引きこもりの友として



昨年犬を飼い始めました。犬種はキャバリア・キング・チャールズ・スパニエル、名前はジュリア(メスですが暴れん坊)。今は1秒でも早く帰って、ひたすら彼女を構い倒しています。

愛犬ジュリア

### Q. 河口奈穂子先生ってどんな人?

親身になって相談に乗って  
くれる優しい先生



池田清香さん(高3)

実が私は英語がすごく苦手でした。でも、河口先生から「毎日続けることが大事。少しずついいからやってみよう」と言われ、毎日少しずつやっていたら、苦手意識がなくなりました。河口先生は1年の時からずっと担任ですが、いつでも相談に乗ってくださり、広い視野でものごとを捉えアドバイスをくださるので、前向きな気持ちになります。



河口先生には、  
感謝の言葉しかありません

森野凜さん(高3)

河口先生は、ふだんはとてもお茶目で楽しい先生。でも授業になるとキリッとして教壇に立つ。そのメリハリがかっこいいなって思います。私は2年間、級長を務めていますが、いつも励まし、褒めてくれます。褒めてくださると嬉しくなって、もっと頑張ろうという気持ちになる。褒め上手なんです、河口先生は(笑)。

これからも華道部を  
よろしくお願いします!



岡田ゆりさん(高3)

私は1年生の時からずっと華道部でお世話になっています。部員たちをいつも優しく見守り、行き詰まった時はさりげなく声をかけ、自信を持たせてくださいます。華道部といったら、河口先生。河口先生なくて華道部は語れません(笑)。これからもずっと華道部のみんなを引っ張っていきましょう。



しらゆり祭に  
出品した作品です

## 看護の道への決意新たに。 ナーシング・セレモニーを開催。

2024年1月20日(土)、アニー・ランドルフ記念講堂にて「2023年度ナーシング・セレモニー」が開催され、看護学部第1期生105名が看護の道への決意を新たにしました。セレモニーは礼拝として行われる第一部と、学生主体で進められる第二部で構成されていました。そこで、セレモニーの企画・運営から当日の進行まで携わったナーシング・セレモニー学生実行委員の永田絢女さん、伊東早織さん、中西晶子さんに、セレモニーに込めた想い、今後の抱負などを聞きました。

### 誓い胸に、医療現場での看護学実習へ。

ナーシング・セレモニーは、初めての病院実習を前に、看護の道へと進む自覚と覚悟を新たにするセレモニー。厳粛な雰囲気の中、賛美ではクワイアの方々と共にマザー・テレサの日々の祈りと言われている「私をお使いください」を捧げました。歌詞の「必要としている人に、私の手、足、声、そして心を差し出して、他者を助けたい」というフレーズと、患者さんに寄り添う看護をめざしている私たちの志が重なりました。誓いの言葉では、みんなで考えた言葉を1期生全員で唱和。その一言ひとことを胸に刻み、これからの看護の道を一生懸命歩いていくことを誓いました。

続く第二部では、学生一人ひとりの「看護への誓いの言葉」や学内での演習風景を映像で紹介。ご家族や教職員の皆さまに見守られながら記念品贈呈や写真撮影を行い、セレモニーは終了しました。準備がはじまった時から、お昼休みに何度も集まっては、話し合いを重ねてきました。式当日まで共に協力してくださった看護学部の先生方に心より感謝します。

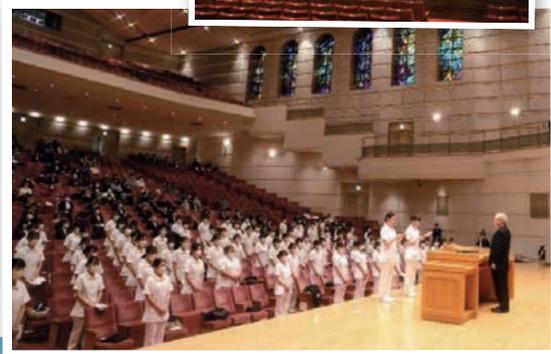


学内での実習風景

### 誓いの言葉

私たちは、看護への道を歩むにあたり、  
金城学院大学の教育理念である「強く、優しく。」を胸に、  
生涯を清く過ごし、すべての人々への「隣人愛」をもって、  
私たちの任務を忠実に<sup>つとめ</sup>行うことを誓います。

2024年1月20日



### ナーシング・セレモニーは 看護師人生の中で一度きりのセレモニー。

永田絢女さん(学生実行委員長/3年生)

ナーシング・セレモニーは、金城の看護学部にとっては初の開催。自分たちの好きなように企画していいと聞き、やりがいがありそうと思って手を挙げました。実行委員は総勢11人。2年生の春に委員会を立ち上げ、企画・準備を進めてきました。式の当日は進行役も務めていたのですが、緊張しましたが、このセレモニーは看護師人生の中でも一度だけの大切な儀式。貴重な経験ができました。今後は病院実習が多くなりますが、実践力を身につけ、患者さん一人ひとりの個性を大事にした看護を提供できるよう、精一杯努力します。

### みんなの成長を感じたセレモニー。

伊東早織さん(学生実行委員/3年生)

準備を進める中で1番苦労したのが校歌斉唱。校歌を知らない学生がほとんどで、集まって練習する時間もなかなか取れない。そこで、考えたのが、お昼休みの時間に毎日校歌を流して、耳から覚えてもらう方法です。本番では、校歌も誓いの言葉も全員の声がかみ合って、感動しました。入学した時と比べて、みんなすごく成長したなって実感しました。病院実習の際に行った援助で、患者さんがとても喜んでくださったことがありました。知識も技術も未熟な私にも患者さんに出ることがあるのだと感じ、より良い援助を行えるよう、もっと勉強していきたいと思いました。保健師を目指して勉強していますが、実習を通して看護師もいいなと思ったので、悔いのない選択ができるよう、考えていきたいです。

### 看護の道を選んでよかったと思えた病院実習。

中西晶子さん(学生実行委員/3年生)

セレモニーが終わった時は、責任を果たせたという開放感でいっぱいでした。後日、写真でみんなで灯したキャンドルの灯を見ていたら、私たちはこれから病院実習に出て、看護師になるんだという実感がじわじわ湧いてきました。先生方の協力もあって、金城としては初のセレモニーをとってもいいカタチで終わることができたと思います。2月の病院実習は緊張の連続でしたが、退院する患者さんから「あなたのおかげで楽しい入院生活だった」と言われ、そのひと言で、看護の道を歩んだことは間違いないなと実感しました。



## 愛され、育ちあう。 ～異年齢保育の中で育ちあう～

金城学院幼稚園では、1976年から異年齢混合クラス編成が導入されています。現在も3歳児から5歳児までの子どもたちが、同じクラスで日々の生活を共にしています。3学期には満3歳児も加わり、4学年で過ごすこともあります。発達に大きな差のある幼児期ですが、異年齢の友達の中で遊び、生活することで、年上児・年下児が互いに育ちあう経験を積み重ねています。

### ようこそ年少さん。なかよくしようね♪

今年度も4月に新しい年少さんを迎え、進級した年中さんや年長さんたちがお手伝いをしてくれています。初めての環境に戸惑い、保護者と離れる寂しさに涙を流す年少さん。すると年上児が、すかさずティッシュをもって駆け寄り「どうしたの?」「寂しくなっちゃった?」「大丈夫、みんないるからね」「ちゃんとお迎え来てくれるよ」と声をかけてくれています。身支度の場面では、「(出席)シールはここに貼るのよ」「水筒の場所はここ」「お外に行くときは帽子がいるよ」と。お片付けの時にも、「もうお片付けの時間だよ」「ハサミはここにに入れてね」「お部屋に戻るよー」と、まるで小さな先生のように年下児を支えています。そのように声をかけてくれる背景には、きっと一年前、二年前に自分も同じようにお兄さんお姉さんに声をかけてもらい、嬉しかった経験があるからでしょう。

### 年上児も年下児も、 みんな生活を共にしている仲間。

もちろん、保育者が年上児に年下児のお手伝いをお願いすることもあります。でも、多くの子どもたちは自分たちで友達が困っていることに気づき、どうしたら良いかを考え、自分の意志で関わっていきます。目の前にいる友達は、登園してから、自由遊びの時間、クラス活動の時間、食事や支度も、「さようなら」のその時まで、“生活を共にしている仲間”です。一緒に過



チャックが…。  
最初がむずかしいよね。  
手伝ってあげる。



ぐず時間が、相手を理解しようとする力、助けてあげたいという思いを育てているのだと思います。一時的な交流ではなく、生活を共にする、必然的に関わりを持つ環境の中だからこそ、小さな年下児の存在が、お兄さんお姉さんを成長させてくれているのだと感じています。

### “一緒にやろう”の積み重ねが、 子どもの育ちあいを深めていく。

遊びの中でも、異年齢の関わりはいたるところで見られます。どろ団子が上手く作れない年少児がいると、年中児が隣で作って見せ、丸く作るコツを伝授してくれたり、氷鬼やドッジボールのルールが曖昧な年中児には、年長児と一緒に遊びながらルールを伝えてくれたりしています。折り紙のリボンを頭につけた年長児を見て、「わたしも欲しい!」という年少児に、「今日は作ってあげるけど、次は一緒に作ろうね」と応える年長児の姿もありました。この“一緒にやろう”が年下児の中に積み重なって行き、自分たちが年上児になったときに次の年下児との関わりの方針となっていくのでしょう。

これからも神さまに愛され、ともに育ちあうキリスト教保育を大事にしていきたいと思っています。



ら、自由遊びの時間も、クラス活動の時間も、食事や支度も、「さようなら」のその時まで、“生活を共にしている仲間”です。一緒に過

三輪車は向こうにかたづけるんだよ。  
一緒に行こう!





## 沖崎学先生による特別講義『9つのステンドグラス物語』が開かれました。

4月26日(金)、宗教主事の沖崎学先生による特別講義『9つのステンドグラス物語』が開かれました。参加したのは、生徒会執行部の鄭朱雅さん、高木ひかりさん、近藤梨瑚さんの3人。現在、金城学院高校には8つのステンドグラスがあり、そのひとつ一つに歴史や物語があることを知り、金城が神さまの愛であふれていることを実感しました。ここではその一部をご紹介します。



### 金城の“これまで”を引き継ぎ、“これから”につなげる希望の光。

地塩館2階のメディアライブラリー(正面入り口)にあるステンドグラス。独特のアーチ形は榮光館からインスパイアされたもので、色は榮光館のステンドグラスに合わせています。榮光館の直線形を現代的に、流線形にしつつ、天地創造から流れてくる、神さまの愛である青い水が、礼拝を守る榮光館から、友と交わり、学びを深める地塩館へと流れ出しています。



地塩ちゃんのポーズをとる3人。

よく見ると、金城生である“地塩ちゃん”が、両手両足を伸びやかに広げ、前に向かっての姿が描かれています。



榮光館3階の小礼拝堂のステンドグラス。水を表す青色が上から下にいくに従って広くなり、黄色の乾いた土の上を潤していきます。生い茂る緑の中には、真っ赤な大輪の花が咲いています。

榮光館1・2階の階段の吹き抜けのステンドグラス。小礼拝堂から湧き出した水が大河となって大地を潤し、その隙間をぬって緑色の植物が広がり、赤い花を咲かせています。

### 榮光館のステンドグラスは2つで1つ。

榮光館には2つのステンドグラスがあります。1つは3階の小礼拝堂に、もう1つは榮光館1・2階の階段吹き抜けのところに設置されています。どちらも榮光館の西側にあり、連続しています。モチーフとなっているのは、聖書の創世記1章の「天地創造」。神さまの愛が青色の水となって、この世界に流れ出ていくさまを、詩的なデザインで表現しています。

### 密かに物語を語る、9つ目のステンドグラス。

現在、最後の9つ目のステンドグラスの完成を目指して計画が進行中。設置場所は世光館。そこには“榮光ちゃん”と“世光ちゃん”が登場します。“地塩ちゃん”と合わせて3人。そうです。金城は135年前に3人の生徒から始まったという物語を、9つ目のステンドグラスがこれから密かに語るのです。

## 金城のステンドグラスは神さまの愛。私たちはいつも神さまの愛に包まれている。



左から高木ひかりさん、鄭朱雅さん、近藤梨瑚さん

榮光館のステンドグラスが神さまの愛だということを今日初めて知りました。私はあの下をよく通るのですが、夕方になると光が差し込んで、青色がすごく鮮やかになります。あれは神さまの愛で、私たちは愛に包まれているんだと思うと、あの下を通るのが楽しみになりました。榮光館の設立は先輩たちの募金活動から始まったと聞き、先輩たちの愛も感じ、自分が金城生であることを誇りに思いました。

高木ひかりさん  
(3年生/宗教常任委員長)

私は毎朝、メディアライブラリーに来て勉強しています。ちょうど、このステンドグラスの真下に座って。そうすると、陽の光が入ってきて、ノートや教科書、机も青色に染まります。あの青い光は神さまの愛で、私たちはその愛を浴びながら勉強していると思うと、幸せな気持ちになります。作品の中に“地塩ちゃん”がかくれていることを知らない人も多いので、みんなにも伝えたいなと思います。

鄭朱雅さん  
(3年生/生徒会長)

私は1年生の4月にYWCAに入部したのですが、初めてYWCAの活動をした場所が榮光館の小礼拝堂でした。その時に沖崎先生から、「榮光館の2つのステンドグラスはつながっている」という話を聞いて、感動したことを思い出しました。物語を知った上で2つのステンドグラスを見ると、本当に小礼拝堂から水が湧き出し、上から下へ流れていくように感じ、とても神聖な気持ちになります。

近藤梨瑚さん  
(2年生/宗教常任副委員長)



## 本校生徒が読書感想文で最優秀賞、感想画で特別優良賞を受賞しました。

写真左から麓菜由子さん、後藤英一先生、志垣ちいさん



本校では、毎年夏に読書感想文と読書感想画を募集し、集まった作品の中から優秀作を選び、各種のコンクールに応募しています。2023年度は、3年生の志垣ちいさんが、昨年度中2在籍時に「愛知県私学読書感想文コンクール中学校第II類(ノンフィクションの部)」で最優秀賞を受賞。高校1年生の麓菜由さんが、昨年度中3在籍時に「第35回読書感想画名古屋市コンクール(毎日新聞社・各学校図書館研究会主催)」で特別優良賞を受賞しました。そこで、本校メディアライブラリーの責任者として生徒たちの読書活動を推進する後藤英一先生と、見事受賞を果たした志垣さんと麓さんに、読書への思い、本を読んで感じたことなどを聞きました。

### 読書感想文、感想画の提出は生徒の自主性に任せている。

かつては春休みの宿題として、生徒全員に読書感想文を書かせていました。しかし読書感想文は苦手という生徒も多く、それが重荷になって読書が嫌いになってしまう子もいました。本来、読書は自分の好奇心の赴くまま、楽しんで読むもので、強制されるものではありません。そんな考えのもと、数年前から読書感想文、感想画の提出については、生徒の自主性に任せようということになりました。

そうした中で、毎年何人かの生徒は感想文や感想画を寄せてくれます。本を繰り返し読み、感じたこと、心に残ったことを文章や絵で表現するのは簡単なことではありません。苦労して作品を仕上げたことだけでも評価に値しますし、ましてやこのような素晴らしい賞を受賞したことは、私たち教師にとっても望外の喜び。二人の快挙を誇りに思い、触発された生徒も多いと思います。

### 本と出会い、読書の楽しさ、喜びを知ってほしい。

10代は人生の中でも最も多感な時期。だからこそ、生徒たちにはもっと本に親しんで、世界を広げてほしい。そんな思いから、さまざまなことを試みています。図書委員の生徒たちに自分がお勧めする本のポップを書いてもらい、メディアライブラリーで紹介するのもそのひとつ。「恵愛祭」では、毎年メッセージを書いた本の葉を手作りして、来てくれた小学生たちにプレゼントしています。読書指導というよりは、本の世界に誘う種まきをしたり、土壌を耕すような作業の中で、生徒たちが好きな本に出会い、読書の楽しさを知って、やがて読書感想文や感想画の作成に自然とつながってほしいなと思っています。



### 第35回読書感想画名古屋市コンクール 特別優良賞

麓菜由子さん タイトル『本当に大切なもの』

ミヒヤエル・エンデの『はてしない物語』は私の大好きなお話。もともと絵を描くことが好きで、言葉では言い表せない感動を絵で表現したいと思ったことが、コンクール応募のきっかけです。絵を描くにあたって原作を読み返したのですが、文章が魅力的で読みやすく、引き込まれるように夢中で読んでしまいました。作画する上で困ったのは、小学生の頃に映画化されたものを何度も観いたので、映画のイメージからなかなか離れられなかったこと。自分の想像力、オリジナリティを大切にしたいので、自分のイメージが出来上がってからは、どんどん筆が進みました。夜中まで頑張って描いたので、受賞の知らせを聞いた時は本当に嬉しく、達成感を感じました。

読書の魅力は、なんと言っても、想像力を膨らませて本の世界に入っていくときのワクワク感。新たな気づきや発見もあって、自分の視野が広がります。



### 愛知県私学読書感想文コンクール 最優秀賞(中学校第II類)

志垣ちいさん タイトル『異常という普通』

私は本屋が好きでよく行くのですが、ある日、一冊の本のタイトルに目が釘付けになりました。そのタイトルは『普通という異常』。普段から私が思っていたことがそのままタイトルになっていました。というのは、私は小学校のとき、ADHD・ASDと診断され、社会の多数派を占める「普通」とは区別されて生きてきました。でも、作者(兼本浩祐)は言います。ADHDやASDを病と呼ぶのなら、「普通」も同じ様に病だ。たとえば、他人が自分をどう見ているか気になって仕方がない、「いいね」を得るためにSNSを過剰に利用するなど、定型発達の人の特長も病と言っているのではないかと。それは自信がなかった私に新しい世界を見せてくれました。

この世の中に普通も異常もない。だからこそお互いに尊重し、理解しあって生きていきたい。この本と出会ったことでその思いが強くなり、それを伝えていくのも私の役割かなと思っています。

## 収支の概要

事業活動収支計算書は、次の3つの活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容並びにすべての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにする計算書類です。

教育活動収支は、学生・生徒・園児への教育並びに研究活動に係る収入と支出の差額であり、2023年度△7億4千4百万円となっています。

教育活動外収支は、教育活動以外の経常的な活動に係る収入と支出の差額であり、2023年度1千2百万円となっています。

特別収支は、その他の臨時的な活動に係る収入と支出の差額

であり、2023年度は大学父母会からの施設設備寄付金、教育研究用機器備品等の現物寄付、施設設備にかかる補助金による収入、資産処分差額による支出等により9千万円となっています。これらの結果、基本金組入前当年度収支差額△6億4千2百万円となっています。

また、学校法人では、必要な資産を継続的に保持するため、教育・研究のために取得した固定資産の金額を基本金として留保しなければなりません。2023年度の基本金組入額は2億8千6百万円になり、その結果、当年度収支差額は△9億2千7百万円となりました。

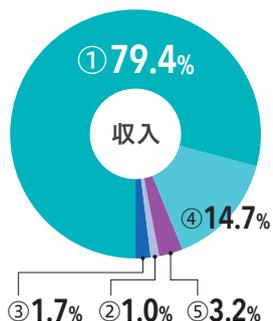
## 2023年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

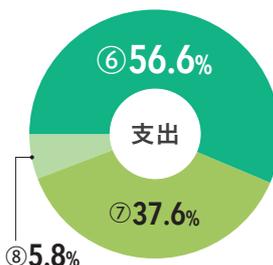
教育活動収支		
収入	学生生徒等納付金	7,868,026
	手数料	102,268
	寄付金	163,531
	経常費等補助金	1,452,843
	付随事業収入	28,797
	雑収入	285,981
	<b>教育活動収入計</b>	<b>9,901,446</b>
支出	人件費	6,050,817
	教育研究経費	3,972,530
	管理経費	621,849
	徴収不能額等	0
	<b>教育活動支出計</b>	<b>10,645,196</b>
<b>教育活動収支差額</b>		<b>△ 743,750</b>
教育活動外収支		
収入	受取利息・配当金	34,343
	その他の教育活動外収入	760
	<b>教育活動外収入計</b>	<b>35,103</b>
支出	借入金等利息	23,262
	その他の教育活動外支出	0
<b>教育活動外支出計</b>		<b>23,262</b>
<b>教育活動外収支差額</b>		<b>11,841</b>
<b>経常収支差額</b>		<b>△ 731,909</b>

特別収支		
収入	資産売却差額	14,808
	その他の特別収入	90,611
<b>特別収入計</b>		<b>105,419</b>
支出	資産処分差額	6,112
	その他の特別支出	9,101
<b>特別支出計</b>		<b>15,213</b>
<b>特別収支差額</b>		<b>90,207</b>
基本金組入前当年度収支差額		△ 641,702
基本金組入額合計		△ 285,649
当年度収支差額		△ 927,351
前年度繰越収支差額		△ 17,939,600
基本金取崩額		4
翌年度繰越収支差額		△ 18,866,947
(参考)		
事業活動収入計		10,041,968
事業活動支出計		10,683,670

## ● グラフで見る教育活動



- ① 学生生徒等納付金……授業料、施設設備費、実験実習料などの収入
- ② 手数料……入学検定料や証明書発行手数料などの収入
- ③ 寄付金……卒業生、企業等から頂いた寄付金
- ④ 経常費等補助金……国や地方公共団体から受けている補助金
- ⑤ その他の収入……付随事業収入、雑収入などの収入



- ⑥ 人件費……全ての教員・職員の給与、所定福利費などの経費支出
- ⑦ 教育研究経費……授業や実習などの教育に関する経費と教員・学生の研究に関する経費支出。資格講座、就職講座の経費なども含む
- ⑧ 管理経費……教育研究に直接関係しない経費支出

金城学院の2023年度の決算について、お知らせします。学校法人では学校法人会計基準という法令に基づき計算書類(決算書)を作成しますが、ここでは、事業活動収支計算書、貸借対照表、資金収支計算書の3表によって決算概要を説明します。



## 資産・負債・純資産の概要

貸借対照表は、年度末における財政状態を明らかにする計算書類であり、資産・負債・純資産を示しています。

資産は、土地・建物等の有形固定資産、将来の特定の支出に備えるための資金を留保した特定資産、ソフトウェア等のその他の固定資産、現金預金等の流動資産から成っており、2023年度末434億3千2百万円となっています。

負債は、返済期間が1年以内に到来しない借入金等の固定負債、返済期間が1年以内に到来する借入金・前受金等の流動負債

から成っており、2023年度末77億7千万円となっています。なお、負債に含まれる借入金は、主に金城学院キャンパスマスタープラン「KMP21」によるキャンパスの大規模リニューアルに伴う日本私立学校振興・共済事業団からの借入金です。

純資産は、外部へ返済の必要のない金城学院に完全に帰属する資産総額であり、正味財産と呼ばれています。これは、2023年度末356億6千2百万円となっており、2022年度末363億3百万円から6億4千1百万円減少しています。

## 2023年度 貸借対照表

(単位：千円)

科目	本年度末	前年度末
有形固定資産	32,305,209	33,705,159
特定資産	5,425,896	5,417,750
その他の固定資産	1,639,362	1,618,002
流動資産	4,061,673	4,236,085
<b>資産の部合計</b>	<b>43,432,139</b>	<b>44,976,996</b>

科目	本年度末	前年度末
固定負債	5,739,612	6,561,388
流動負債	2,030,753	2,112,132
<b>負債の部合計</b>	<b>7,770,365</b>	<b>8,673,519</b>
基本金	54,528,721	54,243,076
繰越収支差額	△ 18,866,947	△ 17,939,600
<b>純資産の部合計</b>	<b>35,661,774</b>	<b>36,303,477</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>43,432,139</b>	<b>44,976,996</b>



## 資金の動きの概要

資金収支計算書は、1年間に発生した支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにする計算書類です。2023年度は教育研究のための経費として、23億6百万円の資金が使われ、教育

研究の充実が図られました。また、2023年度の支払資金の残高は、37億6千4百万円となっています。

## 2023年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	
学生生徒等納付金収入	7,868,026
手数料収入	102,268
寄付金収入	163,965
補助金収入	1,502,169
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	29,557
受取利息・配当金収入	34,343
雑収入	244,304
借入金等収入	0
前受金収入	1,071,001
その他の収入	3,102,222
資金収入調整勘定	△ 1,410,959
前年度繰越支払資金	3,807,641
<b>合計</b>	<b>16,514,537</b>

支出の部	
人件費支出	6,186,756
教育研究経費支出	2,305,706
管理経費支出	601,796
借入金等利息支出	23,262
借入金等返済支出	644,420
<b>小計</b>	<b>9,761,939</b>
施設関係支出	122,339
設備関係支出	129,734
<b>小計</b>	<b>252,073</b>
資産運用支出	63,619
その他の支出	2,841,287
資金支出調整勘定	△ 167,990
翌年度繰越支払資金	3,763,609
<b>合計</b>	<b>16,514,537</b>

注：各表の数値は千円未満を四捨五入しているため、合計数値に差異を生じる可能性があります。

# 金城学院 学生・生徒・ 園児募集

## 大学・大学院入試の知っておきたいポイント

※詳細は受験生応援サイトをご覧ください。

Point 1

国公立大並の学費で学べる  
「金城サポート奨学金」  
年間学費が50万円になる!

給付対象

- 一般入試(前期)[2科目型][3科目型]  
合格者の内、成績上位者100名
- 共通テスト利用入試(前期)  
合格者の内、成績上位者100名

Point 2

社会人入試奨学金  
入学金と同額を  
入学後に給付!

※下記の内容は2024年7月現在の情報となっております。変更される場合もございますので必ず各入試の「募集要項」やホームページにて最新情報をご確認ください。

入試種別	出願期間	入試日	合格発表日	
総合型選抜 総合型選抜入試 (NEW)	9月2日(月)～ 9月9日(月)17時ネット締め	2次選考※1 10月12日(土)	11月 1日(金)	
学校推薦型選抜 一般公募制推薦入試※2	11月1日(金)～ 11月5日(火)17時ネット締め	11月16日(土)	12月 2日(月)	
社会人・外国人留学生・海外帰国子女入試 社会人編入学試験(3年次)	11月 5日(火)～ 11月13日(水) 必着	12月 7日(土)	12月12日(木)	
大学 一般選抜	一般入試(前期)※2 [2科目型][3科目型][複数日評価型] [英語外部試験利用型]	1月 6日(月)～ 1月17日(金)17時ネット締め	2月1日(土)・3日(月)・ 4日(火) ※薬学部は、 3日(月)と4日(火)のみ実施	2月18日(火)
	共通テスト利用入試(前期)※3	1月 6日(月)～ 1月24日(金)17時ネット締め	個別試験なし	2月18日(火)
	共通テストプラス方式入試※3	1月 6日(月)～ 1月28日(火)17時ネット締め	2月14日(金)	2月20日(木)
	一般入試(後期)	2月 5日(水)～ 2月21日(金)17時ネット締め	3月 5日(水)	3月 7日(金)
	共通テスト利用入試(後期)※3	2月19日(水)～ 3月 8日(土)17時ネット締め	個別試験なし	3月15日(土)
薬学部一般編入学試験(4年次)	2月10日(月)～ 2月18日(火) 必着	3月 7日(金)	3月15日(土)	

※1 1次選考は書類審査のみ。1次選考結果通知は9月20日(金)。 ※2 地方試験会場を設けています。詳細は受験生応援サイトをご確認ください。 ※3 大学入学共通テストを受験していることが出願条件となります。

入試種別	出願期間	入試日	合格発表日
薬学研究科 夏期試験	6月25日(火)～ 7月 9日(火) 必着	7月20日(土)	7月25日(木)
文学研究科・人間生活学研究科 秋期試験 在学生特別入試(前期課程Ⅱ期※4・後期課程) 卒業生特別入試秋期※4 ※5	9月17日(火)～ 9月24日(火) 必着	10月 5日(土)	10月10日(木)
文学研究科・人間生活学研究科 春期試験・卒業生特別入試春期※4 ※5	1月17日(金)～ 1月24日(金) 必着	2月 8日(土)	2月13日(木)

※4 臨床心理学分野は実施しません。 ※5 文学研究科の後期課程は実施しません。

入試種別	出願期間	入試日	合格発表日
思考力入試(専願)	1月2日(木)～ 1月7日(火) ネット出願のみ	1月11日(土)	1月15日(水)
四科入試(一般入試)		1月18日(土)	1月21日(火)
英語利用入試			
入試説明会 11月2日(土) 場所/金城学院中学校			
【お問い合わせ先】中学校事務室 TEL:052-931-0821(代表) <受付時間:平日 8:30～16:00>			

※各入試の出願条件につきましては、中学校ホームページをご覧ください。

幼稚園体験及び入園説明会	願書配付	願書受付
6月初めから入園説明会と同時に幼稚園体験の予約を受け付けています。(随時受付) 【お問い合わせ先】幼稚園事務室 TEL:052-798-0053 <受付時間10:00～16:00>	9月2日(月) 9:00～ 願書配付は幼稚園体験・入園説明会に参加された方を対象にしています。 ぜひ、幼稚園体験にご予約ください。	10月1日(火) 9:00～ 優先入園枠があります。 詳しくは幼稚園へお問い合わせください。

※詳しくは幼稚園ホームページをご覧ください。

金城学院 × note

全ての女性の  
”ためになる”  
記事を発信中



公式noteはこちら

<https://knowledge.kinjo-gakuin.jp/>

## KINJO INFORMATION

### 金城学院オリジナルグッズ 新商品のご紹介



金城学院の校章をあしらった  
アジャスター付き。チェーンは  
全てK18製です。

#### オリジナルジュエリー

サステナブルジュエリーとしてアップサイクルされた  
ネックレスに新しいデザインが登場しました!



#### 妙香園お茶セット

名古屋老舗お茶専門店、妙香園様  
と金城学院のコラボ商品。

金城学院  
オンラインストア  
商品の詳細情報や  
ご注文はこちらから





2024年度  
聖句標語

Scripture  
Word

平和を実現する人々は、幸いである、  
その人たちは神の子と呼ばれる。

[マタイによる福音書 5章9節]

今、世界では、戦争や紛争が起こり、平和とは言えない状況にあります。それだけでなく、能登半島地震のような災害によって、これまでの日常生活や愛する人が奪われる時にも、平和が失われます。

さて、「平和を実現する人々」という言葉は、仲が悪く、争っている人々のところに行って、仲直りさせる人々、和解させる人々のことです。聖書において、「平和」とは、戦争などの争いが無い状態だけでなく、神様と人間との関係が正しい状態にあることを意味しています。人間は、神様を信じず、神様との正しい関係を築こうとしませんでした。それなのに、神様は何とかなして人間と正しい関係を築きたいと考えてくださり、神の御子イエス・キリストを

この地上に遣わし、十字架にお架けくださることによって、私たちが神様と和解させ、神様と私たちの間に平和を実現して下さったのです。それは神様が私たちを愛してくださっているからです。

平和を実現することの難しさを感じる今だからこそ、イエス様が、「平和を実現する人」ではなく、「平和を実現する人々」と言われたことに注目し、神様の愛と平和を受けた私たちが心を一つにして、祈りを合わせ、イエス様をお手本にして行動することで、平和が実現すると信じて歩んでいきたいのです。

北川美奈子(中学校宗教主事)

## みどり野会(同窓会)より

みどり野会は1903年に設立された金城学院の卒業生が集う会です。『みどり野会』という名称は大正9年(1920年)、旧約聖書の詩篇第23篇から名付けられました。

主はわが牧者なり われ乏しきことあらじ

主は我をみどりの野にふさせ

いこいの水濱にとまなひたまふ

神さまによってこの学院に集められた私たちが卒業後も母校に集まり、いこいの時を過ごす場という意味で「みどり野会」はいつも皆さんと共にあるのです。

## お知らせ

### 召天者記念礼拝 および 恩師を偲ぶ会

● 日 時：2024年10月5日(土) 10:00~11:45

● 場 所：エラ・ヒューストン記念礼拝堂

● 礼 拝：金城学院宗教総主事 小室尚子先生

2023年7月~2024年3月までになくなられた恩師と卒業生のための追悼礼拝です。どなたでもご参加いただけます。

### クリスマス礼拝

● 日 時：2024年12月14日(土)

● 場 所：中学校白百合館 礼拝堂

※お申し込みが必要となります。

※詳細は秋発行『みどり野』をご覧ください。

※イベント予定の変更がある際は、みどり野会HPにてご連絡します。

お問合せ先  
[みどり野会事務局]

電話：《本部》052-931-4480(中学校白百合館1階) / 《分室》052-798-0193(大学本部棟4階)  
<https://www.kinjo-midorino.com> ※活動詳細は会報『みどり野』をご覧ください。

## 寄付金募集について

これまでの金城学院への様々なご支援に心より感謝申し上げます。  
今年度もご寄付をお受けしております。  
2口以上ご寄付賜りました方には  
本学院より心ばかりの品をお送りさせていただきます。

### 寄付金の使途

1. 修学奨学金 のため

2. 本学院発展 のため

2項目からお選びいただけます。

寄付に関する詳細は  
寄付リーフレット  
及びホームページを  
ご覧ください。

<https://www.kinjo-gakuin.jp/donation/about/index.html>



学校法人 金城学院  
名古屋守山区大森二丁目1723番地  
TEL.052-798-0180  
発行者/金城学院報編集委員会  
金城学院報通巻第113号  
(With Dignity vol.43)  
発行/2024年7月

表紙について

大学の新たなシンボル、エラ・ヒューストン記念礼拝堂

第6代(実質第3代)校長エラ・ヒューストンを記念した礼拝堂で、竣工は2014年3月。円筒状の礼拝堂内には天井の高い楕円形の空間が広がり、正面には十字架を配置。周囲の壁面の12の窓から十字架の光が外に向かって射出するようなデザインとなっています。礼拝堂バルコニーにはパイプオルガンも設置されています。



with Dignity

金城女学校・第6代校長であるエラ・ヒューストンが、外出する生徒に「金城の生徒として『You must have dignity』と話しかけたことに由来しています。『dignity』は、尊厳・品位の意。